



図 17.3 アミロイド苔癬 (lichen amyloidosis)
3～8 mm 大の淡褐色調、掻痒の強い丘疹が多発、
集簇する。



図 17.4 斑状アミロイドーシス (macular amyloidosis)

表 17.1 アミロイドーシスの分類

--

治療・予後

皮膚限局性アミロイドーシスに対しては、ステロイド外用薬の ODT (6 章 p.97 参照) が効果的である。骨髄腫を伴った全身性アミロイドーシスは予後不良で、腎不全や心不全をきたして死亡することが多い。

a. 皮膚限局性アミロイドーシス localized cutaneous amyloidosis

1. アミロイド^{たいせん}苔癬 lichen amyloidosis

下腿前面，前腕伸側，背部に好発する。2～10 mm 大の淡褐色調かつ表面平滑な丘疹が多発し，ときに集簇^{しゅうぞく}する (図 17.3)。激しい掻痒^{そうよう}を伴うことが多い。病理所見では真皮乳頭部のアミロイド集塊のほか，角質および表皮肥厚，基底層のメラニン顆粒増加などを認める。ステロイド外用，抗ヒスタミン薬内服が有効である。

2. 斑状アミロイドーシス macular amyloidosis

中年女性の肩甲部や背部に好発する，点状ないし網目状の色素沈着 (図 17.4)。ナイロンタオルを長期にわたり使用したことで生じる摩擦黒皮症 (16 章 p.310 参照) の部位にアミロイドが沈着している場合があり，斑状アミロイドーシスとの強い関係が想定される。